

- ② 避難所に電気自動車で電力供給
- ③ 気付いて心のSOS
- ④-⑤ 特集 東日本大震災から10年 忘れない 震災の記憶
- ⑥-⑧ 街の話題/コラム/お知らせ



④ 2011年3月11日

忘れられない日



2011年3月11日生まれの子どもがいる5組の家族を撮影

生まれた当時の写真

④ 関口心菜さん (前右)

① 水島雄太さん (前右)

⑤ 島津優結さん (右から2人目)

③ 日吉春介さん (中央)

② 鈴木啓輔さん (中央)

10年前のあの日、あの時、皆さんはどこで何をしていましたか。2011年3月11日14時46分「緊急地震速報、緊急地震速報」。けたたましい警告音の直後、経験したことのない揺れが東日本の各地を襲いました。多くの命が失われた日は、新しい命が誕生した日でもありました。この日に生まれた子どもたちは、背丈が伸び、心も育ち、今年で10歳になります。「あの日のことは今でも鮮明に覚えています。忘れない一日になりました」。どの家族も10年前を振り返り、懐かしんでいました。

感染症と戦う日々が続く今、形は違えど、天災に立ち向かった経験を糧にし、前を向いて歩いていきたいと思います。

《4・5面に関連記事》

生まれてきてくれて
ありがとうございます

Zoom Up

停電時も最低限の機能を確保 避難所に電気自動車で電力供給

大規模災害時の避難生活を支えるため、電気自動車から公民館や保育所に電気を供給するシステムの整備を始めました。他にも、感染症対策として室内用テントや大型扇風機を確保するなど、避難所の整備が進んでいます。

現在、私たちは、新型コロナウイルス感染症という新たな脅威と共に日々を過ごしています。同時に、地震や風水害などの自然災害も引き続き危険があり、備えが必要なのは変わりません。市では、感染症対策を踏まえた上で自然災害に対応するため、避難所の整備に取り組んでいます。

電気自動車から給電

市では1月に、電気自動車から施設



日産自動車株式会社と災害時の電力供給の協定を締結

進む避難所の感染症対策

他にも、9月には避難所用の感染症対策物品を確保。身体的距離を保つた

に電気を供給するシステムの整備を始めました。災害時に指定緊急避難場所として使われる公民館など、20の公共施設にある分電盤を工事しています。電力は、施設が停電した際に最低限の機能を保つため、情報収集・発信用の機器や照明器具などに使います。

一人一人の備えが命を守る

東日本大震災から10年、感染症の流行から1年が経ち、私たちは少しずつ、大きな脅威と戦う知識を身に付けてきました。一人一人の対策と備えが命のゆくえを左右することを忘れずに、できる準備をしておきましょう。

☎危機管理課 ☎225-2190

避難所での感染症対策

- 1 手洗い、消毒、咳エチケット**
避難所の設備などは多くの人がかかるため、小まめに手洗い・手指の消毒を
 - 2 身体的距離の確保**
距離を取るのが難しければ背中合わせで座るなど、顔が近付かないように
 - 3 体調の変化に注意**
定期的に検温し、発熱やせきなどの症状が出たらすぐに報告
- ※マスク、体温計、手指消毒液など、基本の持ち物も忘れずに

自分や家族を守る「自助」 家庭でできる備え

一人一人の意識と準備が、いざという時に命を守ります。改めて、今できることに取り組みましょう。

☎危機管理課 ☎225-2190

持ち出し品の準備



◆持ち出し品の例

- 貴重品
- 飲料水（1人1日程度）
- 非常食（缶詰、ビスケット、チョコレートなど）
- 生理用品 雨具
- 毛布 タオル
- 筆記用具
- 携帯電話などの充電器

詳しくは [厚木市 防災ポケットブック](#) [検索](#)

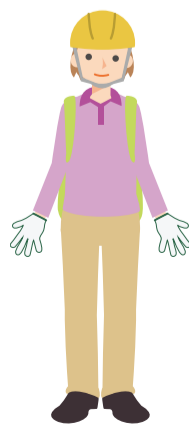


避難経路の確認



◆家族でチェックしよう

- 避難所の場所
- 危険箇所（ブロック塀・石垣の近く、川沿い、地下道、狭い道など）を通らない経路か
- 歩いてみて危険箇所はないか
- ◆避難する時は
- 荷物はリュックサックに詰め、両手が空くように
- ヘルメットなどで頭を保護
- 軍手で手を守る
- 長袖、長ズボン
- 履き慣れた靴（長靴は避ける）



地域で互いに助け合う「共助」 自治会に入ろう

いざという時、近くの人同士で助け合うには、顔の見える関係づくりが大切です。地域コミュニティに参加しましょう。



10月の防災訓練



2018年撮影



2018年撮影

- ▲防災訓練で災害時の行動を共有
- ▶祭りや顔合わせも安心につながる
- ◀地域で情報を共有

Twitterで情報発信中！

自治会連絡協議会twitterで、地域の活動などを発信しています。

詳しくは

[@atsugijichiren](#) [検索](#)

☎市民協働推進課 ☎225-2141



いのちのサポート相談では臨床心理士が話に耳を傾ける

Zoom Up

3月は自殺対策強化月間 気付いて 心のSOS

進学や就職などで生活環境が変わる3月は、自殺者が増える傾向にあります。不安や悩みは独りで抱えず、誰かに話すことが大切です。身近な人や市の相談窓口などで話して、心の負担を軽くしませんか。

悩みを話して心を軽く

市内の自殺者数は、2011年をピークに減少傾向にあるものの、19年にも37人が自ら命を絶っています(下表参照)。さらに、長期化するコロナ禍は、多くの人の心に負担を掛けています。昨年7月から全国的に自殺者数が急増し始め、1月に国が発表した20年の全国の速報値では、11年ぶりに前年を3.7%(750人)上回りました。女性や若年層が増えている傾向もあり、必要な支援につなぐことが大切です。

自ら死を選ぶ人の多くは、健康や家庭環境、経済面など、複数の悩みを抱えています。市では、18年10月に自殺対策計画を策定。「生きるを支える地域社会の実現」を基本理念に、相談窓口の設置や悩みを聴く人材の育成などを進めています。

市の相談窓口では、保健師、精神保健福祉士、臨床心理士などが、相談者の話に耳を傾けています(左欄参照)。臨床心理士の吉田亜紀さん(55)は「悩みが重なり深刻化する前に解決していくことが大切。誰かに話すことで、自

◆市の相談窓口

悩み別の相談窓口の一覧などを掲載した冊子「ここ、元気ですか?」を市HPに掲載しています。



詳しくは

相談内容	問い合わせ先	電話番号
こころの健康	健康づくり課	☎225-2201
子育て	子育て支援センター	☎225-2922
高齢者	介護福祉課	☎225-2220
働く人の心の悩み	産業振興課	☎225-2585
生活困窮	福祉総務課	☎225-2895
ひとり親家庭	子育て給付課	☎225-2241
青少年の教育	青少年教育相談センター	☎221-8080

◆ゲートキーパー養成講座

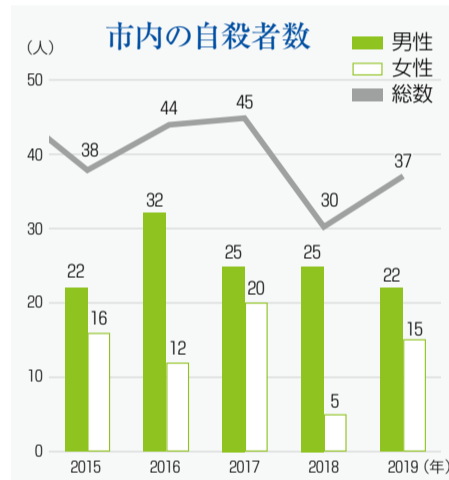
悩みを聴くこつや声の掛け方などを学べる講座を通年で開催。出前講座もあり。

問健康づくり課☎225-2201

悩みを聴くのは、専門家ではなくても応じられます。心に負担を抱えている人の変化には、身近にいる家族や友人が最も早く気付きます。市では、悩んでいる人への声掛けや話の聴き方を学べる講座も開催しています(左欄参照)。心のSOSに気付き、誰も自殺に追い込まれない地域をつくりましょう。

身近な人の変化に気付く

分自身を客観視でき、解決の糸口が見つかることもある」と話します。



新型コロナウイルス感染症対策

ワクチン接種の準備状況

市では、健康づくり課内にワクチン接種担当部署を設置し、準備を進めています。65歳以上の高齢者の皆さんには、3月下旬に接種券を郵送する予定です。



市新型コロナウイルスワクチン接種コールセンター

ワクチン接種に関する相談は市のコールセンターへ

☎0570-054-666

受付時間 8時30分~17時15分(全日)

【接種計画を策定中】 医師会などと協力し、円滑に接種できるように計画策定を進めています。保健福祉センターに常設の集団接種会場を設置する他、公民館での巡回接種で、円滑に接種できるように計画します。

接種は無料 ワクチン接種を装った詐欺に注意してください

混雑回避

日曜も窓口をオープン



転入・転出などの手続きが集中する年度末・年度初めは、次の日時にも窓口を開設します。

開設日	開設窓口	取り扱い業務
3月28日・4月4日 8時30分~12時	市民課 ☎225-2110	住民異動届(転出・転入・転居など)/印鑑登録/戸籍に関する届け出/住民票の写しなどの証明書・マイナンバーカード・課税証明書の交付
	国保年金課 ☎225-2120	国民健康保険の加入・脱退などの届け出や給付申請/被保険者証・国民健康保険料納付書の発行(後期高齢者医療・国民年金を除く)
3月27・28日 8時30分~12時	学務課 ☎225-2650	学区変更などによる、小・中学校の新入学手続き。当日は市民課☎225-2110へ。
	子育て給付課 ☎225-2230	医療証の発行、児童手当・児童扶養手当の申請など

※市民課と国保年金課は、祝日を除く土曜の午前中に窓口を開設。介護保険など、土・日曜は取り扱えない手続きがあるため、事前に確認してください。

東日本大震災から10年

忘れない 震災の記憶

私たちの記憶は、時の流れとともに少しずつ色あせていきます。しかし、時を経て鮮明に残り続ける記憶もあります。恐怖、悲しみ、怒り、そして心の温もり。特集では、市内の相川小学校と、宮城県石巻市にあった同名校との絆など、今も色あせない思いを胸に活動する人たちの姿を追いました。

震災時の厚木

- ・震度5弱を観測
- ・小田急線が全列車停止し、帰宅困難者約720人が7カ所の避難所に避難
- ・避難中の転倒で1人負傷、厚木サンパークで街路灯3基・ブロック塀3カ所が倒壊
- ・市内で計画停電を実施
- ・被災地復興支援のため義援金活動を実施
- ・七沢自然ふれあいセンターで被災地からの避難者を受け入れ

本厚木駅前前の帰宅困難者

「窓から見える青い海遠くに見える北上川」「みんな仲よし相川小学校」。海の描写や、聞き慣れない川の名が登場する校歌。この歌詞は10年前、宮城県石巻市の相川小学校から、厚木市の相川小学校に贈られたものです。二つの相川小の交流は、2011年4月、一人の児童が校長室へ駆け込んだことから始まりました。

二つの相川小



被災地を思い歌う相川小の子どもたち

水嶋祐介さん(21・酒井)は、校長だった中川洋太さん(60・森の里)に訴えかけた。一枚残らず窓のなくなった校舎に、べしんこの体育館、校庭を埋め尽くすがれきや木材。全てが、その場所ので起きた出来事のすさまじさを物語っていました。震災直後から「次世代に伝えなければ」「子どもたちの、遠くからでも人思いやる気持ちを育てたい」と考えていた中川さん。応援したいという水嶋さんの言葉を受け早速、全校児童に「何ができるか考えよう」と投げ掛けました。児童会のメンバーだった水嶋さんら6年生を中心に話し合い、募金活動やメッセージ入りうちわづくりなどを実施。そして、石巻の相川小に向け、教員作曲・児童作詞の第二校歌「フレンズ・オブ・アイカワ」を応援歌としてつくり、歌声をCDに収めました。

12年には、水嶋さん含む小・中学生も一緒に被災地へ赴きました。厚木の野菜や果物を仮設住宅に届けた水嶋さんは「当時は幼いながら、何と声を掛けていいのかわからなかった。でも、物資を手渡したとき相手が『ありがとう』と笑ってくれたことを覚えている」と振り返ります。水嶋さんが小学校を卒業し、石巻の相川小が統合のために閉校してからも、中川さんと有坂さんは交流を続けました。「学校がなくなっても、地域同士のつながりを持ち続けたい。二人は感染症の影響があった昨年を除き毎年、石巻市を訪れ、食事したりお土産を交換したりしています。有坂さんは、相川小で毎年3月11日に開かれる「命の日」の特別授業で、自分の体験を伝えていきます。「震災を知らない子どもたちに、あったことを伝えたい。悲劇を繰り返さないため、そして、命の大切さを再認識してもらいたい」。

受け継がれる思い

あの日から10年。東北では新しく造られた防潮堤や高架道路が視界をふさぎ、地上から海はもう見えません。昨年、石巻の相川小の元校長から中川さん

に届いた年賀状には、仮設住宅から全員が高台に越したと、相川小含む3校が統合された学校の校舎が完成したことが書かれていました。「景色はほとんど変わるし、遠くにいるとすでに終わったことのように感じてしまっても、そうではない。残さなくてはならない」。中川さんはそう力を込めます。「窓から見える相模川、遠くに見える富士の山」輝く海で水遊び、神割崎でカレー作り「みんなが笑顔の相川小学校」。相川小の体育館には、6番までになった第二校歌の歌詞が今も貼り出され、歌われています。石巻の校舎が姿を消し、学校の名前がなくなっても、二つの相川小が紡いだ歌はずっと、厚木で受け継がれていきます。

相川小の体育館に提示された合唱曲の歌詞



①2011年6月の石巻の相川小学校。校舎の3階まで津波が押し寄せた②交流事業の名前は相川交流プロジェクト③石巻の相川小にうちわを届けた有坂さん(右)と中川さん(左)④2012年4月に石巻の相川小の校長(右)にイチゴを手渡す水嶋さん(中央)と中川さん(左)⑤資料や写真を見て当時を振り返る有坂さん(右)と水嶋さん(中央)、中川さん(左)⑥昨年、当時の相川小の校長先生から中川さんに届いた年賀状



二つの相川小 交流の記録

当時の映像や第二校歌の歌詞全文を市ホームページで公開しています。

ボランティア参加者に配られた感想の文集

- ・「フレンズ・オブ・アイカワ」合唱の映像、歌詞全文
- ・当時の活動を記録したブログ

厚木市 石巻市 相川小 交流

花で震災の記憶をつなぐ

奇跡の花 あいりちゃん

公民館では、地域の皆さんとアイリンブループロジェクトに参加しています。

花の種をお分けします
自宅の花壇などで花を育てただけの方に種をお分けします。育った苗の一部は公民館に返してもらい、他の方につなぎます。

事前に連絡の上、直接、睦合南公民館へ。先着順。

睦合南公民館 ☎223-3774

シンガーソングライター 音楽でつながる心

デビューが岩手県だったので、震災時は応援してくれた方々の顔が浮かび、他人事とは思えませんでした。本当に音楽が被災した方のためになるかと迷いながらも、元気を届けようと配信ライブを開催。「ありがとう」

「また聴かせて」という反響があり、逆に自分が元気をもらった気がします。2017年からは、定期的に東北でライブをしています。感染症の状況が良くなったら、また恩返しに行くつもりです。

山田 尚史さん (37・妻田)

震災ボランティア できることで寄り添う

震災直後の4月、ボランティアツアーに初めて参加しました。当初は現地で側溝の泥出しやがれきの撤去などをしましたが、徐々にニーズが変わり、最近では特産物をお取り寄せするなどして被災地の方と関わっています。

ボランティアの受け取り方は、人それぞれだと思います。自分のやったことが、少しでも誰かの助けになっていたらうれしいです。困ったときはお互い様の精神で、できることを続けていきたいです。

野村 誠さん (47・旭町)

あつぎ災害ボランティアネットワーク みんなの備えで被害を小さく

震災時は、七沢自然ふれあいセンターで被災者の方の生活支援をしていました。現在は、市内で防災グッズの紹介や災害時への備えなどをテーマに防災・減災の啓発活動をしています。皆さんに伝えたいのは「準備をしていれば被害を小さくできる」ということ。持ち出し品の準備や避難経路の確認など、事前の備えで、助かる命があるはず。大災害はいつ起きてもおかしくありません。自分の命は自分で守るという意識で過ごしてほしいです。

高橋 咲子さん (70代・旭町)

福島県西郷第一中学校美術部顧問 作品を通じて届ける思い

学生時代の友人の縁で、毎年、厚木の野外彫刻展に生徒の作品を出展しています。震災直後で美術コンクールが開催できない中、「厚木の野外展に出してみたら」と彫刻展の委員であった友人から声を掛けられたときは心のつながりを感じました。同時に毎日のように起こる余震や放射能への恐怖で不安を抱える中、希望が薄れた瞬間でした。これからは作品を通じて、西郷村の子どもたちが頑張っている姿を伝えていきたいです。

角田 尚一さん (60・福島)

震災と向き合う人たち

市内産のイチゴが食べ頃 イチゴのもぎ取りや直売が最盛期



もぎ取りは要予約。詳しくは市HPに掲載

下津古久でイチゴを作る内海則行さんは「感染症対策に協力いただき、多くの人にもぎ取りを楽しんでもらいたい。市内産のイチゴはJAあつぎの直売所でも買えるので、ぜひ味わってもらえたら」と話していました。

市内産のイチゴが旬を迎え、もぎ取りができる農園では家族連れなどが旬の味覚を楽しんでいます。今年に入場人数の制限やアルコール消費など、感染症対策をしながら実施しています。市内では現在、市園芸協会いちご部会に所属している14軒の農家などが、章姫や紅ほっぺ、おいCベリーをはじめとする多くの品種を生産しています。そのうち、もぎ取りを楽しめるのは5軒。期間は5月頃までです。



地域活性化に向けて民間との連携を強化 民間団体2者と包括連携協定を締結

県トラック協議会・厚木とは、災害時の備蓄品の輸送や地域の見守り活動、市の魅力のPRで連携していきます。小林市長は「民間の皆さんとの連携を強め、より良いまちを市民協働で作りたい」と話していました。



県トラック協議会・厚木の浅生建一会長と



第一生命保険(株)の四方浩之厚木支社長と

市は1月に、第一生命保険株式会社と県トラック協議会・厚木の2者と包括連携協定を締結しました。それぞれが持つ人材や技術などをまちづくりに生かしていきます。第一生命とは、持続可能な社会をつくるSDGsの推進活動で連携。同社の地域ネットワークを生かし、市が今春導入するアプリ「まちのコイン」の普及をはじめ、健康増進や防犯・防災の啓発活動に取り組みます。県トラック協議会・厚木とは、災害時の備蓄品の輸送や地域の見守り活動、市の魅力のPRで連携していきます。小林市長は「民間の皆さんとの連携を強め、より良いまちを市民協働で作りたい」と話していました。

6市町村の首長が水害対策などを協議 県央相模川サミットをオンラインで開催

相模川の周辺自治体(厚木・海老名・相模原・座間市・愛川町・清川村)の首長と県の副知事が2月に、地域の共通課題を話し合いました。この日は、昨年県に要望した水害対策への取り組み状況の確認からスタート。続いて、県内に被害が広がっているブナ科の樹木を枯らす伝染病「ナラ枯れ」の対策を協議し、補助金の確保を国に要望することを決めました。その後、新型コロナウイルス対策について意見を交わしました。サミットの会長を務める小林市長は「感染症が拡大する中、病床の確保やワクチン接種への対応、経済支援など課題は山積み。近隣自治体が連携し、必要な支援を国や県と調整する必要がある」と力強く話していました。



感染対策のため初めてオンラインで開催

学生が伝統芸能を写真で表現

相模里神楽写真展「あつぎの神さま」がスタート

東京工芸大学芸術学部写真学科の4年生2人が撮影した相模里神楽の写真展示が、2月に本厚木駅東口地下道で始まり、2カ月程度で作品を入れ替えながら、8月31日まで展示しています。展示は、若い世代の感覚で相模里神楽の魅力を表現してもらい、伝統芸能の新しい魅力を引き出そうと市が主催。感染症が流行する中、古くから無病息災などを願って舞われてきた神楽に触れられる催しとして実施しています。被写体は、市内で伝統を継承する垣澤社中です。撮影した増田美咲さんは「生で見た神様の格好良さとライブ感を伝えられるよう工夫した。たくさんの人に見てもらえたら」と笑顔を浮かべていました。



撮影を担当した増田さん(左)と越智芽生さん(右)

アツギ X ニュージーランド ホストタウン通信

NZホストタウンが協力 歌で届けたエール

全国16のNZホストタウンが協力し、同国の国民的フォークソング「Tūtira Mai Ngā Iwi」をリレー形式で歌う動画を公開しました。動画は、東京2020大会が新型コロナウイルスの影響で延期となり、来日できなかった選手や現地住民の皆さんにエールを送るため、市が中心となって企画。市内からは「相模国飯山白龍太鼓保存会」の皆さんが参加しました。動画は今後、NZのさまざまなイベントで活用されます。



歌を披露する飯山白龍太鼓保存会の皆さん



▲動画は市公式YouTubeチャンネルで公開

Tūtira Mai Ngā Iwiは、日本語で「みんな集まって」という意味です。全国のホストタウンとNZをつなぐ歌を、皆さんもぜひ聞いて、歌ってみてください。

東京オリンピック・パラリンピック(東京五輪)に向けて、ホストタウンとなったニュージーランドとの交流事業を紹介します。

2度目の緊急事態宣言が出されてから、2カ月ほど経ちました。皆さんの協力で感染症の拡大をなんとか抑え込んでいるものの、依然として重症患者や自宅療養者は多く、医療現場では病床の逼迫や救急搬送先の調整など、厳しい状況が続いています。1月、地域医療を守るため、愛川町と清川村、厚木医師会と共に県を訪れ、病床の確保や医療従事者への手当ての支給などを要望しました。

受け入れてくれている市立病院で病床の追加を決め、県内全域の患者の対応に全力で当たっています。私たちがこれまでも、地震や風水害などいくつもの困難を乗り越えてきました。まん延する感染症にも、きつと打ち勝ちます。市民の皆さんの命と生活を守るために、これから始まるワクチン接種や経済の復興支援などに取り組み、明るい未来を築いてまいります。

県知事に直接要望書を手渡した

通常の診療がある中、限られた人員と設備で感染症の対応に当たるのは容易ではないと承知していますが、医療崩壊を防ぐには地域全体で協力していく必要があります。2月には市でも、県の重点医療機関として流行当初から感染症患者を受け入れてくれている市立病院で病床の追加を決め、県内全域の患者の対応に全力で当たっています。私たちがこれまでも、地震や風水害などいくつもの困難を乗り越えてきました。まん延する感染症にも、きつと打ち勝ちます。市民の皆さんの命と生活を守るために、これから始まるワクチン接種や経済の復興支援などに取り組み、明るい未来を築いてまいります。

タウンガイド

3月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

4月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

☑=申し込み ☎=問い合わせ ☎=電話番号
 ☎=ファクス番号 ✉=Eメール HP=ホームページ
 ○=講座予約システム(○印の番号で、ウェブ上から詳しい情報を確認できます。「○印」と記されたものは、申し込み可)
 市役所への郵便物は「〒243-8511〇〇課」で届きます。

あつぎのしゃしん。



「花火で地域を元気に」

#1月15日撮影
 #小鮎小学校
 #エール花火
 #niceatsugi
 広報課公式インスタグラムで公開中



新型コロナウイルス感染症に関する県の相談窓口

発熱等診療予約センター	新型コロナウイルス感染症専用ダイヤル
発熱などの症状があり、かかりつけ医で受診できない方(毎日9~21時) ☎(0570)048914	感染の不安のある方、健康・医療のことなど(24時間対応) ☎(0570)056774

新型コロナウイルスの影響で掲載の催しが中止となる場合や、利用に制限のある施設があります。市HPで随時お知らせします。

スポーツなじみDAY

3月20日、10時~15時30分。荻野運動公園。気軽に楽しめるニュースポーツを体験。屋内=バウンズボール、キンボール、ドッジビー、カーレット、ビーチボール、体力チェックコーナーなど。屋外=ターゲット・バードゴルフ、グラウンド・ゴルフなど。雨天時は屋内種目のみ。室内履きをお持ちください。無料。☑当日直接会場へ。☎スポーツ推進課☎225-2531。

学校給食センター運営委員会委員を募集

給食費や設備の充実などを審議する委員を募集します。
 《対象》①市内在住に勤在学または市に納税義務があり、応募日現在18歳以上②平日昼間の会議(年2回程度)に出席できる③他の審議会などの委員でない④市の議員・職員でない—の全てを満たす方3人《任期》6月1日~(1年間)《報酬》日額7800円(交通費含む)。
 ☑学校給食課や市HPにある申込書を、直接または郵送、ファクス、Eメールで3月31日(必着)までに〒243-0211三田172北部学校給食センター☎225-2653・☎243-1018・☎8250@city.atsugi.kanagawa.jpへ。書類選考あり。

市立病院の看護師などを募集

☑看護師
 《試験日》4月25日《対象》1992年4月2日以降生まれで(奨学生は

除く)、2022年の国家試験で助産師または看護師免許を取得見込みの方25人。

◆臨床検査技師

《試験日》6月13日《対象》1987年4月2日以降生まれで、①臨床検査技師の資格を持つ②超音波検査技師の資格を持つ—の全てを満たす方1人。

◆社会福祉士

《試験日》6月13日《対象》1987年4月2日以降生まれで、①社会福祉士の資格を持つ②2022年3月31日時点で医療機関などでの職務経験が3年以上—の全てを満たす方1人。

いずれも☑市立病院や市役所本庁舎、本厚木・愛甲石田駅連絡所、市立病院HPにある申込書を、直接または郵送で4月25日~6月2日(消印有効)までに〒243-8588水引1-16-36病院総務課☎221-1570へ。

市民協働推進委員会の委員を募集

条例の運用状況の点検や市民協働提案事業の審査をする委員を募集します。

《対象》①市内在住に勤在学または市に納税義務があり応募日現在18歳以上②平日昼間の会議(年4回程度)に出席できる③他の審議会などの委員でない④市の議員・職員でない—の全てを満たす方2人《任期》6月1日~(2年間)《報酬》日額7800円(交通費含む)。
 ☑市民協働推進課や市HPにある申込書を、直接または郵送、ファ

自宅で運動!健康な体をつくろう オンラインフィットネスセミナー

無料

自宅で運動すること伝える講座をオンラインでライブ配信します。感染対策が必要な状況が続く中、健康を保つために体を動かしませんか。

日時 3月27日

①10時~②13時~(各1時間)

内容

- ①「adidasファンクショナルトレーニング」=運動不足を解消する体幹トレーニング
- ②「心と体のリラクゼーション」=心と体の緊張を和らげるストレッチや呼吸法など

対象 市内在住に勤在学の方各回50人



☑3月1日から市HP(右の二次元コード)または電話で国保年金課へ。先着順。



☎国保年金課☎225-2125

クス、Eメールで3月31日(必着)までに〒243-8511市民協働推進課☎225-2141・☎221-0260・☎2800@city.atsugi.kanagawa.jpへ。書類選考あり。

地域包括ケア推進会議委員を募集

地域包括ケア社会の実現に向けた取り組みを協議する委員を募集します。

《対象》①市内在住で応募日現在18歳以上②平日昼間の会議(年4回程度)に出席できる③他の審議会などの委員でない④市の議員・職員でない—の全てを満たす方3人《任期》5月1日~(2年間)《報酬》日額7800円(交通費含む)。
 ☑福祉総務課や公民館、市HPにある申込書を、直接または郵送、Eメールで4月1日(必着)までに〒243-8511福祉総務課☎225-2047・☎1900-08@city.atsugi.kanagawa.jpへ。書類選考あり。

「詐欺かも」と感じたら消費生活センターに相談を

訪問勧誘や点検商法、サイドビジネス・マルチ商法、通信販売トラブルなどが増えています。個人情報やむやみに伝えず、不要なら断りましょう。☎消費生活センター☎294-5800。

原動機付自転車などの廃車・変更届け出はお早めに

軽自動車税(種別割)は、4月1日に原動機付自転車、軽自動車な

どを所有または使用する方に課税されます。盗難や譲渡などで所有していない場合は、3月中に手続きをしてください。

《手続き場所》原動機付自転車(125cc以下)・小型特殊自動車=市民税課☎225-2012、軽二輪車(125cc超~250cc以下)・二輪の小型自動車(250cc超)=相模自動車検査登録事務所☎050-5540-2037、三輪・四輪以上の軽自動車(660cc以下)=軽自動車検査協会神奈川事務所相模支所☎050-3816-3120。
 ☑市民税課☎225-2012。

フードバンクの活動に協力を

食品ロスを減らすため家庭で余った食品を募集し、必要な家庭に無償で提供します。

《日時》3月17日、10~15時《会場》あつぎ市民交流プラザ。☑当日直接会場へ。☎Heart34☎080-6602-2163(10~16時)。

みんなの声でまちをつくる

《意見交換会》

①市立小・中学校の適正規模・適正配置に関する基本方針②市立小・中学校施設整備指針

3月28日、①10時30分~②14時~(各1時間)。市役所本庁舎。手話通訳・要約筆記あり。☑電話またはファクス、Eメールに意見交換会名、〒住所、氏名、電話番号を書き、3月23日までに教育総務課☎225-2663・☎224-5280・☎7800@city.atsugi.kanagawa.jpへ。

ホット インターネットモニターからの意見を紹介

いメール Hot E-Mail

インターネットモニター募集
 厚木市 インターネットモニター 検索

☎広報課☎225-2043

2月1日号「広報あつぎ」を読んで

◆SDGsを初めて知った。より豊かな未来に向けて、日々の生活を見直したい/70代以上女性 ◆厚木中央公園で何の工事が進んでいるのか謎が解けた。雨水貯留管ができるのは心強い/40代女性 ◆感染を防ぐための行動が改めて分かった/60代男性 ◆SDGsの取り組みに関わる「まちのコイン」は良い取り組み/50代男性 ◆厚木の名産品が増えて、ますますグルメなまちに!贈り物などにも使いたい/40代女性

編集後記

特集の取材を進めていく中で、被災地に赴いた子どもたちの文集を読ませていただきました。現地に行ったからこそ書ける言葉の数々に胸が熱くなり、当たり前のように過ごしている日常のありがたさに気付きました。取材した皆さんは、「震災を風化させてはならない」という強い思いを持っています。時が経つにつれ当時の記憶は薄れていきますが、私も自分にできる形で寄り添っていきたくです/土田



みんなの 近場の魅力を集めた動画を公開

かなかまとなりっぷ

コロナに負けず、近場で楽しみながら地元の経済や観光を応援する8市町村の連携企画。お勧めスポットや近場で楽しむ様子など、皆さんに応募いただいた1500枚を超える写真の中から、動画を作りました。感染対策が欠かせない日々が続きますが、近隣で力を合わせて乗り越えていきましょう。 ☎広報課 ☎225-2040

《公開日》 3月1日 12時
専用YouTubeチャンネルで動画を公開▶ 

神奈川+仲間=かなかま となり+トリップ=となりっぷ
気軽に遠くへ行けない中でも地元で楽しんで経済を応援しようと思った、厚木・綾瀬・伊勢原・海老名・座間・大和市、愛川町、清川村の連携企画。魅力を伝える動画やSNSのハッシュタグなど、オンラインでも楽しめる企画です。

写真は住民の皆さんからの応募写真

自然歳時記

●ノスリ●
タカ科

体長54センチほどで雌は雄よりも少し大きい。雑木林や畑地の上空を飛びネズミなどを食べる。下から見ると白っぽく尾を扇形に広げて飛翔する。あつぎこどもの森公園の上空で見つけた。 写真・文/吉田文雄



森から現れたタカが、青空をゆっくりと舞い始めた。尾羽を丸く広げたり、首を左右に傾けたりする様子がよく見えた。翼を広げると、暗褐色の模様が目立つノスリと分かった。気持ち良さそうに舞っていたが、上昇気流に乗って一気に山のかなたへと飛んで行った。鳥との素晴らしい出会いに、

子どもたちと心の充実感に浸った。肌寒い別の日、森の上空を見るとまたノスリが舞っていた。しばらく見ていると、同じくらいの大きさのハシブトガラスが来て「カアカア」と騒ぎ立てたが、ノスリは意に介さず木々の間を抜けて行った。時折見掛けるこんな姿に、威厳と風格を感じた。

厚木市の人口 (2月1日現在)	世帯数 10万1303世帯 (前月比17世帯増)	人口 22万3771人 (前月比97人減) 男11万5712人・女10万8059人
---------------------------	---------------------------------	--